会　議　録　要　旨

会議の名称	平成２５年度第２回富士見市青少年問題協議会
開 催 日 時	平成２６年２月７日（金）午後１時３０分～３時３０分
開 催 場 所	富士見市役所分館　会議室
出　席　者	星野信吾会長、森元　州委員、関野兼太郎委員、 今井　寛委員、越智弘尚委員、清水洋志委員、 髙野路子委員、山田一江委員、吉田京子委員、 森川達也委員、本間雄一委員　行松泉委員 事務局（子ども未来部長、子育て支援課長、 　　子育て支援課副課長）
欠　席　者	古庄弘道 委員、牟田泰啓 委員、寺島直子 委員、 関　健二 委員、野田理美 委員、有賀輝彦 委員、 小沼彰彦 委員、
公開・非公開	公開
会 議 次 第	○第２回富士見市青少年問題協議会 １　開　会 ２　会長あいさつ ３　協　議 （１）講義「いじめ防止基本方針の策定にむけて」 ～富士見市のいじめの実態といじめ防止の取り組み～ 講師　富士見市教育委員会 指導主事　　小林　正剛　氏 （２）いじめ防止について意見交換 ４　その他 ５　閉会

講義資料	別紙のとおり

会　　議　　内　　容（要点記録）

○講義：「いじめ防止基本方針の策定にむけて」
～富士見市のいじめの実態といじめ防止の取り組み～

○意見交換

【会　長】いじめの件数など具体的な数字が示されましたが、皆さんのご意見はいかがでしょうか？

【委　員】いじめの認知件数というのは、被害者が「いじめ」と認知したという意味ですね。いわゆる加害者の意見は、含まれてはいないのですね。

【講　師】はい、そうです。

【委　員】本人はいじめとは気づかず、周りが気づいたケースもあると思いますが、まずは担任が気づいて解決していくとなると、担任の先生の力量も問われてしまうのではないですか？本人に訴える力があればいいのですが、相談室に相談に来ても、「担任には言わないで」と言われれば相談員が抱え込んでしまうケースもありますよね。

【講　師】今は、担任や部活、相談員が一人で動かず、学校全体、組織として動くように指導しています。

【委　員】学校現場での話をしますと、教師が気づくパターン。本人からの場合は、相当深刻になってからでないと訴えてきません。定期的なアンケート。周りからの話が出てきて、教師も見つけやすい。あとは保護者からの訴えによるもの。それで調べてみるとやっている子はそんな意識はなく、単なる遊びの延長であったりします。

【委　員】加害者もいじめている意識がないのだから、反発はするし、親もそんなはずはないと自分の子どもを擁護する形になってしまいますよね。

【委　員】子どもに「いじめたね？」と聞けば「ＮＯ」ですが、具体的に「こんなことを言ったね。」とか「こんなことをしたね」と言うと「アッ」と気づき、自分でもびっくりしながらやめる。とにかく早期発見早期対応が重要です。

【委　員】児童数全体を考えてみても、いじめがゼロになることは、無理な話だろうと思います。それよりも不登校の生徒に現場の先生が対応するのは、大変な労力であろうと思のですが、そちらの問題についても何か手立てがないものでしょうか？

【会　長】昔の子どもに比べて、今の子はデリケートになっているのではないでしょうか。ぜひ相談室でカウンセリングしてもらいたいと思います。すぐに解消する話ではないでしょうが、継続的に地道に取り組んでいく必要があります。
ＰＴＡでいじめの話を議論するようなことはありませんか？

【委　員】特定の話が出たことはないです。立ち話で話題になる程度。よほど特別なケース以外で教育の現場に行くことはないです。

【委　員】主任児童員の立場から発言させていただきますと、問題行動を起こす子どもの家庭は、家庭訪問をしても親御さんが留守で連絡の取れない家庭が多いように思われます。

【委　員】不登校児童対策の話をしますと、適応指導教室というものが「教育相談室」にあり、毎年２０名程度が通ってますが、全員が進学できています。教室に来ていない子どもについても学校ごとにケース会議を持って対応しています。

【会　長】昔からいじめはあったと思いますが、どんな子どもがいじめられやすいのか、どんな子どもは注意しなければいけないのかを先生方は検証しているのではないでしょうか？

【委　員】先生方は、経験の中で感じている部分が多いとは思うので、若い教師向けの「いじめを見逃さないため」の研修は実施しています。

【委　員】最近はいわゆるグレーゾーンの子どもが増えてきているのではないでしょうか？子どもたちの本質を見抜く力、そんな研修も必要かと思われます。

【委　員】ある調査によると、６～１０％がグレーゾーンの児童であり、ケアが必要と言われており、一人一人パターンが違うため、学校だけでのケアは難しく、教育相談室を中心にプロジェクトを組んでいます。そのプロジェクトが学期に１回各学校を訪問し、個人のケースについて検証し、指導していきます。

【委　員】各学校では、個別の指導方法もきちんと引き継がれてきています。月１回の特別委員会を実施しており、特別支援員（3名）、担任もよく勉強しています。

【委　員】いじめの件数が多いのかどうかはわからないけれども、この件数の中に重大事件も含まれているのかもしれないという認識を持っていないとならないですね。

統計的にみると、いじめをしている子どもが、将来大きな犯罪にかかわる確率が高いという話も聞きます。被害者の保護はもちろん重要ですが、加害者への対応も難しいと思うのですが、どのように指導しているのでしょうか？

【講　師】まずは被害者を保護し、その親をフォローし、そのあと慎重に加害者に寄り添っていきます。そのためのチームを組織する場合もあるし、医療関係者と連携することもあります。

【委　員】基本方針を立てたところで、いじめは決して無くならない。いつでも重大事件が起きることを想定しておくべきだと思います。問題なのは、SNS などによる言葉の暴力だと思います。友達から「死んだ方がいい」と言われ続けていると、本当にその方がいいと思うようになってしまう。現場の先生と家庭でのフォローが重要だと思います。また、問題の多い家庭は、学校が指導したいと思っても、保護者は学校に来ない。PTA でもこういった人たちへの指導が問題視されているところです。

【委　員】子どもたち自身が考え方を変えていく必要があると思います。友達同士が助け合う活動をピアサポート活動と言いますが、これは大変有効であると思われます。うちの学校では、パーソナルサポート活動を実施しています。それは自分が頑張ったことを紙に書いてファイルしていく。友達が頑張ったことも書いてファイルしていく。これをやることによって、自己肯定感や他人を認める気持ちが育成されていくのです。徐々に成果が出てきているのではないかと思っています。藤枝市では全校でこの活動に取り組んでおり、成果を上げているようです。

【委　員】中学校でも、そういった活動をやってもらいたいと思います。ガラッと生活の変わる中学１年生でぜひやってもらえるといいと思います。

【委　員】もっと小学生から大学生までが一緒に行動したりする縦割りの活動が増えてくると、自己肯定感も生まれてくるのではないでしょうか。

【会　長】年末に小学校 4～6 年までの合唱部の発表を聴いてきました。今後も連合運動会やスポーツ大学など、子ども同士の大きなつながりを作るための縦割り活動を進めていきたいと思っています。いじめは校内だけの問題ではなく、地域の中で見守っていく必要があるので、今後は条例を作って対応していく予定です。

【委　員】私たちは、地域を見守る立場にありますので、地域の力が必要とされてきているならば、連携を取りながら活動していきたいとは思います。

【会　長】地域の人たちにそういう認識を持ってもらうことが重要なんですね。

【委　員】通学路で登下校の姿を見た方が参考になるのではないでしょうか。
でもそこで、もしかしていじめ？と思っても、判断できないから、声はかけられないのです。

【委　員】ぜひ軽く声をかけて欲しいと思います。子どもたちの中で見られているという意識が出てくるはずなんです。そして、それが抑止力となっていきます。何か気になることがありましたら、ぜひ学校へ連絡してください。小さな積み重ねが重要なんです。

【会　長】当市の教育相談室は大変充実しています。ぜひ、上手に利用してもらいたいと思います。これから策定するいじめ防止基本方針の中にも、本日の皆さんのご意見を反映していきたいと思います。本日はありがとうございました。